

問1.【漢方の歴史】

(1) つぎの説明の書籍名を記号で答えなさい。

- ①人体の解剖・生理・病理などの基礎医学的知識や養生法、鍼灸療法について著された現存する最古の医学書。
- ②365品目の薬物を人体に与える影響により上・中・下薬に分類したのが最大の特徴で、現存する最古の本草書。
- ③張仲景が著わしたとされ、熱性伝染病の治療について臨床経過を追って詳細に論じた実践治療学書。

A. 勿誤薬室方函口訣 B. 本草綱目 C. 神農本草經 D. 傷寒論 E. 黄帝内經 F. 和剂局方

(2) 我が国の後世方派と古方派の説明で、( ) に適当な言葉を下欄から選んで記号で答えなさい。

後世方派：室町時代、明で隆盛を極めていたのが『黄帝内經』の理論を『傷寒論』の様な臨床医学に当てはめて考える金元医学で、( ① ) や防風通聖散等の処方が創製された。( ② ) が留学の後これをわが国に広め、「随証治療」をはじめて唱えた。( ③ ) は「随証治療」をさらに明確にした。この流れが後に後世方派と呼ばれるようになった。後世方派は「証」の基礎を『( ④ )』から採用した。

古方派：江戸時代に入り、京都の( ⑤ ) は『( ⑥ )』の実証性を再認識、思弁的傾向の強い金元医学を排して「昔に帰る」ことを提唱し、( ⑦ ) によって古方派として確立された。また、それまで少数にのみ口伝等で伝えられていた漢方に特徴的な「( ⑧ )」の技術も広く普及する様になった。

A. 小柴胡湯 B. 補中益氣湯 C. 葛根湯 D. 傷寒論 E. 黄帝内經 F. 皇漢医学  
G. 後藤良山 H. 曲直瀬道三 I. 名古屋玄医 J. 田代三喜 K. 聴診 L. 腹診

問2.【漢方的なお客様の状態の把握の仕方】つぎの説明に該当する適語を下欄から選んで記号で答えなさい。

- ① 新陳代謝の盛衰にともなう病邪に対する生体反応が、熱性で発揚性か寒性で沈降性かを表す。
- ② 生体が病邪に侵されゆがみを受けた時に、これを跳ね返そうとする力「抗病力」の強さを表す。
- ③ 全身倦怠感、気力の低下、疲れやすい、食欲不振などの症状をきたす。
- ④ 冷えのぼせ、発作性の頭痛、不眠症、いらいら感、驚きやすい、動悸、焦燥感などの症状をきたす。
- ⑤ 憂鬱、のどのつかえ感、胸の詰まり感、腹部膨満感などの症状をきたす。
- ⑥ 顔色が悪い、皮膚の乾燥やあれ、爪の割れ、頭髪が抜けやすい、月経異常、眼精疲労、こむら返りなどの症状をきたす。
- ⑦ 口の乾き、色素沈着、目の周りのクマ、腰痛、不眠、不安、月経異常などの症状をきたす。
- ⑧ 朝のこわばり(浮腫)、尿量減少、拍動性の頭痛、頭重感、胃内停水、めまい・耳鳴りなどの症状をきたす。

A. 陰陽 B. 虚実 C. 気鬱 D. 気逆 E. 気虚 F. 水滯 G. 瘀血 H. 血虚

問3.【承認制度と体力表記等】新承認基準で「しぼり」に組み入れられた内容について、適語を番号で答えなさい。

- (1) 虚実の概念：主に体力に関する記述で表現し、簡便のため( ① ) 段階の分類が行われた。
- (2) 陰陽の概念：「陽」の病態を適応とするものが「のぼせがみで顔色が赤く」等の( ② ) として、「陰」の病態は「疲れやすく冷えやすいものの」などの( ③ ) を示す表現を用いた。
- (3) 気血水：「口渴があり、尿量が減少するもの」( ④ )、「皮膚の色つやが悪く」( ⑤ ) などの表現を用いた。

A. 3 B. 5 C. 8 D. 熱症状 E. 寒性の症状 F. 血虚 G. 瘀血 H. 水毒

問4.【代表処方使い方と注意】

- ① しぼりは「体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの」。成分に麻黄 1.2-1.5g, 大黄 1.5g, 芒硝 1.5g, 甘草 2g, 石膏 2g を含む。
- ② しぼりは「体力中等度以上のもの」。成分に麻黄 3-4g, 甘草 2g を含む。
- ③ しぼりは「体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるもの」。
- ④ しぼりは「体力中等度以下で、疲れやすく、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿で、ときに口渴があるもの」。成分に地黄 5, 6-8g, 加工ブシ 0.5-1g を含む。(左側の数字は湯、右側は散)。

A. 葛根湯 B. 小青竜湯 C. 柴胡桂枝湯 D. 八味地黄丸 E. 防風通聖散 F. 胃苓湯 G. 黄連解毒湯

# 令和4年度 登録販売者生涯学習研修確認テスト 第6講座『胃痛及び腹痛(便秘を伴わない)』

問1. 【受診勧奨】 受診勧奨が適当と思われる症状には○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

注意！：受診勧奨の際、私達は診断ができないので、思い当たる病名などを口に出さないように注意しましょう。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

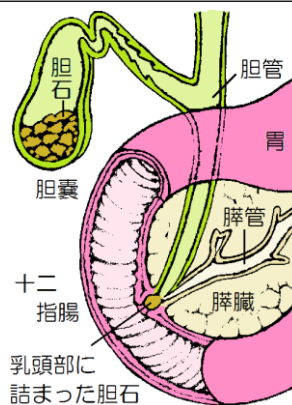
- ① 上腹部が突然痛み出し、何時間か続いた吐き気や嘔吐の後、痛みが右下腹部に移ってきた。
- ② 腹痛は周期的な鈍痛ではなく、局所的な鋭い痛みで身体を動かすと強まる。  
胃腸鎮痛鎮痙薬を服用して1時間経つが、痛みのおさまる気配がない。
- ③ 月経予定時期を過ぎてからいつもより量の少ない出血が始まった。それが持続して、いま下腹部にいつもと少し違う痛みを感じてる。
- ④ 突然の激しい下腹痛（主に左側）を伴って下痢。一度おさまったが、しばらく経つとまた腹痛が起こり、今度は血便が出た。



虚血性大腸炎の血便と内視鏡写真  
潰瘍と浮腫がみられる 提供: 徳善堂

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

- ① しばしばみぞおち（上腹部）に焼け付くような痛みを感じる。最近では疲労感、脱力感、軽度のたちくらみ等が気になっている。
- ② 食事の後しばらくして、みぞおちから右の肋骨の下部で激しく痛み、右肩に放散する痛みがあらわれた。
- ③ 夫だが、上腹部の激しい痛みで身動きがとれず、嘔吐もしている。昨夜は数時間前まで、お酒をかなり飲んだ様子。
- ④ 脇腹から外陰部にかけての激しい痛みが起こり、同時に吐き気と冷や汗が。
- ⑤ 数時間前に刺身を食べたのだが、嘔吐を伴う激しい腹痛が起こっている。



写真提供：東京都福祉保健局⇒

問2. 【セルフメディケーションでも対応できる胃痛】空欄に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

胃が灼けるように痛む場合※1には（ ① ）やストレスを和らげる薬を、胃の平滑筋が痙攣を起こして強く痛む場合には（ ② ）を、胃が張って痛む場合※2には（ ③ ）を配合する医薬品が適応する。ただし、症状が一時的に改善しても繰り返しあらわれて長引いたり、体重が減少したりする場合には受診勧奨が適当。

※1：この様な場合であっても、検査しても病変が見つからない場合もある（機能的胃腸症の場合等）。

※2：幽門部の腫瘍のために食物が通過障害を起こしているような場合もあるので要注意。

- |                     |                                 |
|---------------------|---------------------------------|
| A. 消化成分、健胃生薬、消泡成分等  | B. 粘膜保護修復成分、抗コリン成分、制酸成分、局所麻酔成分等 |
| C. パパベリン塩酸塩、抗コリン成分等 |                                 |

問3. 【一般用医薬品の使い分け】

(1) 次の「胃痛」又は「腹痛」の効能・効果を持つ、承認基準に基づく漢方製剤を下欄から選んで下さい。

- ① 体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、はきけ、嘔吐などを伴うものの次の諸症：神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱
- ② 体力中等度で、胃部の停滞感や重圧感、食欲不振があり、ときにはきけや嘔吐のあるものの次の諸症：胃痛、急性胃炎、二日酔、口内炎
- ③ 体力中等度又はやや虚弱で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・はきけなどのあるものの次の諸症：胃腸炎、かぜの中期から後期の症状
- ④ 体力に関わらず使用でき、筋肉の急激なけいれんを伴う痛みのあるものの次の諸症：こむらがり、筋肉のけいれん、腹痛、腰痛
- ⑤ 体力虚弱で、疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿および多尿などを伴うものの次の諸症：小児虚弱体質、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜泣き

- |   |
|---|
| A. 四逆散 B. 小建中湯 C. 人参湯 D. 六君子湯 E. 黄連湯 F. 柴胡桂枝湯 G. 芍薬甘草湯 H. 小柴胡湯 I. 安中散 |
|---|

(2) 説明に該当する胃腸鎮痛鎮痙薬成分を下欄から選んで下さい。

胃腸鎮痛鎮痙薬は、「胃痛、腹痛、さしこみ(疝痛、癩)※、胃酸過多、胸やけ」の効能・効果を書くことができ、抗コリン成分、パパベリン塩酸塩、局所麻酔成分、制酸成分、生薬等が配合されている。

※：通俗的な総称 疝痛：発作性の間欠的な痛み 癩：胸部や腹部に生じる激しい痛み

- ①強酸性下でも影響を受けない強力な局所麻酔作用がある他、胃幽門部からのガストリン遊離抑制作用、胃酸分泌抑制作用、胃・十二指腸の運動亢進の緩和作用も有する。
- ②酸分泌に関連していると思われる胃粘膜のムスカリン受容体を特異的に遮断して攻撃因子を抑制する。また、胃の粘膜防御因子の増強作用も有する。
- ③抗コリン作用による胃液分泌抑制作用、胃腸管運動抑制作用の他、軽度の局所麻酔作用もある。
- ④第4級アンモニウム塩の抗コリン成分であり、すぐれた鎮痙作用・胃酸分泌抑制作用を示す。第3級アミンのベラドンナアルカロイド(アトロピン、スコポラミン)に比べ、中枢性の副作用が低減されている。
- ⑤主作用は胃粘膜の血流の改善で、粘膜の修復・粘液合成の促進作用等に加え、胃液分泌抑制作用も併せもち、防御・攻撃因子の両面に作用する。

A. アミノ安息香酸エチル B. ピレンゼピン塩酸塩水和物 C. パパベリン塩酸塩 D. ロートエキス  
E. オキセサゼイン F. ブチルスコポラミン臭化物 G. セトラキサート塩酸塩

問4.【患者情報確認・生活スタイル】一般用胃腸鎮痛鎮痙薬(第1類成分を除く)の添付文書に照らして、最も適当な語句を選んで下さい。

- ・ピレンゼピン塩酸塩水和物、( ① )の製剤は、妊婦又は妊娠していると思われる人は服用できない。
- ・( ② )は母乳中に移行するため、服用する場合には授乳を一時やめなければならない。また、母乳が出にくくなることもある。この他、妊婦(胎児に頻脈等を起こすことがある)、高齢者、排尿困難のある人、又は心臓病もしくは緑内障の診断を受けた人は注意が必要(相談事項)。
- ・( ③ )は、「6歳未満の乳幼児」には使用できないとする年齢制限がある。
- ・従来からの抗コリン成分は一般に、「排尿困難」の症状がある人、「緑内障」や「心臓病」の診断を受けた人は注意が必要(相談事項)で、かつ服用後、乗物又は機械類の運転操作をしてはならない。しかし、( ④ )にはこれらのうち「心臓病」の診断を受けた人に対する注意書きがない。
- ・抗コリン成分の内、( ⑤ )はより慎重な注意で、緑内障、前立腺肥大、心臓病、麻痺性イレウス(腸閉塞)、甲状腺機能亢進症、不整脈、潰瘍性大腸炎の診断を受けた人は使用してはならないことになっている。相談事項には「高齢者、体の弱っている人」、「排尿困難のある人」等の記載がある。
- ・( ⑥ )は、効能・効果の範囲の症状と虫垂炎を判別するために「悪心・嘔吐のある人」は、相談するよう記載されている。
- ・( ⑦ )は制酸や胃粘膜保護を目的に配合され、その製剤には「長期連用しないこと」と記載される。特に「透析療法を受けている人」は使用できず、腎臓病の診断を受けた人は注意が必要(相談事項)。
- ・( ⑧ )は、「甲状腺機能障害の診断を受けた人」の場合、その血中濃度の調整に影響を及ぼすおそれがあるため、相談するよう記載されている。

A. アミノ安息香酸エチル B. ピレンゼピン塩酸塩水和物 C. パパベリン塩酸塩 D. ロートエキス  
E. オキセサゼイン F. アルミニウム塩 G. カルシウム塩 H. 小建中湯 I. チキジウム臭化物

問5.【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。

- ① 胃部の痛みが30分以上続いているそうなので、とりあえず胃腸鎮痛鎮痙薬をおすすめした。
- ② 胃痛には解熱鎮痛成分や副腎皮質ホルモン剤は効かないばかりか悪影響を及ぼします。
- ③ 胃がキリキリ痛むようなときのお酒やタバコは、気分転換になるので活用するのもいいでしょう。
- ④ 極端に熱いもの・冷たいもの、香辛料などの刺激物は胃の粘膜を直接刺激して胃酸の分泌を促進します。
- ⑤ ストレスは、胃酸やペプシンの分泌促進・胃の緊張増加につながるため、胃痛の原因になります。